

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

「気仙の魂の奥に眠るもの」～第一中学校文化祭の詠作品から～
 ダーウインは南米のガラパゴス諸島を始めとする自然観察から、自然淘汰を説得力あるものにして世に発表した。前回の梅下村塾(125)では21世紀文明は地球環境の受容能力の限界を超え、地球文明の存続に深刻な状態をきたしていることに触れた。

いわば、文明の自然淘汰を現実のものとして、これに真剣に取り組まなければならない状況にあるということをお述べた。
 数十億年前に陸進を始めた生物界は現在までに数回、種の絶滅につながるといえる大きな

とを指摘さねばならぬ。

「1年生の作品 題 一中祭」
 (自然と地域へ響く)

校庭の 仮設に届けと心込め 野分の道を返らす歌声

心を込めて体育館で歌った合唱が野分が吹いている道に響いて、仮設の人々の心に伝わるといふ思いが浮かんできます。

一中祭の合唱は一中生徒の心にいろいろな響きを呼び起こしております。

体育館 響き渡った歌声が 心に沁みる 一中祭

歌声が 学校中に響いている やっばり秋は 合唱の秋

文化祭 人々つなぐ音楽で 地域の人が笑顔になれる

中1女子

一中生たちの心を込めた文化祭と音楽は地域をつなぐ力になっております。地域の遠い歴史の魂に響いているのだから！

返歌
 若人の 歌声空に 野分の道 神社と寺の深い木立に

(東海新報記事から)

11月19日(火)の第1面の世迷言は旧ソ連邦の崩壊が国家システムの官僚の利己心と無責任を生み出した、皆さんの管理体制にあり、これが現在のロシアのシステムにも根深く生きていてソチ冬季オリンピックにもかげを落としていることを述べている。

これは隣の大国である中国においても同じような問題が生じており、周りの国々への大きなプレッシャーとなっている。異色の社会学者、経済学者、政治学者であった小室直樹は既にソビエト帝国の

崩壊数十年前にこの崩壊の必然性を指摘していた。

第2次世界大戦後に超大国になった米国にも、力の陰りが見え始めている。敗戦の苦境から経済大国になった日本においても現在、1000兆円を超える借金を抱えており、国家国民の大きな負担となっている。これらに共通することは倫理観の喪失(モラルハザード)である。これへの対応は歴史に引き継がれた難問であり、その対応は草の根からの歴史と生存への価値意識の育成にかかっている。

一中文化祭は現実社会の奥にある地域の自然と歴史の価値にふれるものが詠まれており(自然と地域へ響く)の詠作品にこれがにじみ出ている。これらの詠作品は心を澄まして味わうと対岸の火事ではすまされぬものに触れていることが伝わってくる。